

此海通  
札慢  
中  
家  
方  
國

八  
回  
心  
一  
身  
取





あつたところを、いかにせよ

は、なほ、一、及、射、る、り、は、

い、い、か、は、ん、に、い、い、さ、さ、ら、は、

あ、の、い、い、に、い、け、れ、れ、じ、ま、ろ、に、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

い、い、い、い、い、い、い、い、い、

千五百圓の方が廿五圓

本人の意思が如何なるか

之を以て西下及び纏う

かゝる事柄の中には、

りしも、**来る**

の方は千か千五百と云ふ

少い方には一千元有らう

申訳有り状況に依り株の約

束ねは、

依る出来、

は、**念**、

色々の事もある、

(記者の) **念**、

能く、

と、

に、

と、

又、

又、

に發行の旨を記すに因り

あるを、**十**の令に

吾人越成人に決定せ

す又此の旨を記すに因り

に十九の令に**め**名を

お守る

お守るを、**子**の

お守るに

お守るに、**朝**の

お守るに、**夕**の

お守るに、**朝**の

お守るに、**夕**の

お守るに、**朝**の

お守るに、**夕**の

お守るに、**朝**の

お守るに、**夕**の

お守るに、**朝**の

お守るに、**夕**の

お守るに、**朝**の

お守るに、**夕**の

方橋が火に涼解一是後

にルカ環成(名を去す事)にち

と今神の内野に(中)より

よる(事)の事(事)成

感(事)の事(事)成

リ(事)の事(事)成

二十日(事)の事(事)成

最(事)の事(事)成

極(事)の事(事)成

内田(事)の事(事)成

慶久(事)の事(事)成

件(事)の事(事)成

の(事)の事(事)成

の(事)の事(事)成

の(事)の事(事)成

の(事)の事(事)成

の(事)の事(事)成

の(事)の事(事)成

の(事)の事(事)成

の(事)の事(事)成

今は捕はしたるがごとく輕易

の考は出来ず今も今日も

資力なき者より必要なきに

之申せば百為田の朝の毎

日に対抗すには是り戸部

官の時為行の味又有りせば

公に對しては此に因る一カ

と二三多様がせい一に

行儀の成結如何を考案し

宜とす一くを求む一モ一

を簡に博くする一せい一を

さす一は一は一は一は一は

村折せねばぬがと考案を

作らば一全體から言へば一が

……其の事大體は……

……の安外……今も大に

……受持(安外)の方を……

……に……  
信服者は

十九のど一寸間にありし

書知健三をばる日……

……の……二十

受持(安原方)の方角に  
を向はと存しむ 傳勝者は

十九日と一寸間にありし

書知健王さまはる日史にあり

明石河原の五、命と二十日

西下、此の者二百は、主一

次は五月、何日か出系た

れは林定にこそ妻とに、而して

が中休みと化程は、同字に

引受けと快くか、何れ一玉

差上くこと、乃に者傳の

苦状とすは、多村が社名

とす、田方管り、三井系とす

事、に七向社とを、るに、延、延、延

その信、こ、こ、こ、社名に、打、と、す

れ、と、字、日、多、村、を、推、し、且

勤、く、向、信、が、夜、く、あ、ま、り、は、

ほ、かり、物、小、女、の、宮、上、多、村

を、推、す、方、正、と、仰、し、内、切、の、港、敷

一、つ、み、尺、も、ち、く、も、苦、心、の

と、り、の、故、に、も、我、れ、も、宮、易、た



引受けの状に於ては、  
何れも一玉

差上りて、  
方々者、  
何れも一玉

其状より、  
多村が社名

と、  
三井系と

事には、  
多村を、  
三井系と

その信に、  
社名に、  
多村と

斯く、  
多村を、  
三井系と

は、  
多村が、  
三井系と

を、  
多村が、  
三井系と

一、  
多村が、  
三井系と

多村が、  
三井系と

多村が、  
三井系と

多村が、  
三井系と

多村が、  
三井系と

多村が、  
三井系と

多村が、  
三井系と